

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年 9月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	2874002229		
法人名	妻鹿興商株式会社		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	兵庫県白浜町甲402番地 (電話) 079 - 246 - 0888		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市福祉会館6階		
訪問調査日	平成19年 8月13日	評価確定日	平成19年 9月 6日

【情報提供票より】(平成19年 6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 1人, 非常勤 19人, 常勤換算	15.97人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	1 階建ての	~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要(6月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	13	要介護2	3		
要介護3	1	要介護4	1		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 83.6 歳	最低	64 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	貴志内科クリニック、ごとう歯科医院
---------	-------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域密着型サービスとしての役割を理解し、事業独自の運営理念3項目を掲げ、日常のケアに活かし、職員の質向上に取り組まれている。利用者、家族、地域との交流に運営者、管理者、職員が熱意を持って積極的に努めている。運営者、全職員協働で、一人ひとりの意見に耳を傾け、運営に反映させる柔軟な姿勢が徹底されている。細部に及んで、利用者・家族が安心して利用できるように取り組まれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	昨年度の外部評価の改善項目を真摯に受け止め、運営者や管理者が自ら改善施策を打ち出し、職員全員で内容を理解し、改善に取り組まれている。運営推進会議等で、改善状況をまとめ、報告されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	今回の自己評価については、職員が内容や意義について確認されており、気がついた点について意見を述べている。運営者、管理者、職員全員で評価項目について協議し、サービスの質向上に向けて検討され、共有した取り組みが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	運営推進委員会では、事業計画、報告、外部評価についての報告、改善状況、利用者の現状などを報告し、また、それぞれの立場からの提案や要望、意見交換等が活発に行なわれ、サービスの質向上に活かす取り組みが行なわれている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	家族の意見や苦情については、面会時に収集し、すぐに対応するようにしている。年に一度はアンケートを配布し、率直な意見や要望を取り上げ、運営や日々のケアに反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
	朝夕の近隣への散歩や買物等で、あいさつを交わしたり、自治会の祭りなどの地域行事への参加等、地域住民との交流を深め、馴染みの関係を熱意を持って築いている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を掲げ、利用者や家族には見学に来られた時に、入居案内の中で書面にまとめ説明している。地域密着型サービスの役割を理解し、果たすべき役割を反映した理念の内容になっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念の意義を共有し、指針や職員心得の中で理念を具体化し日々のサービス実践の基準にしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年に1、2回の自治会の掃除当番は職員と利用者共に参加されており、夏祭りや地域あげでの祭りにも見学として参加している。積極的な地域の人々との交流や関わりの体制や基盤が整っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価の公表内容を職員に伝達し、結果を踏まえて、改善提案委員会で改善に向けて検討され、実践に繋げていくように取り組んでいる。		評価の意義や目的を運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組み、職員の意識合わせケアの振り返りに活かしてほしい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は参加メンバー7名で構成され、現在の課題や認知症ケアの状況について報告し、話し合い、率直な意見を引き出し、サービスの質向上にむけて取り組んでいる。		
6	9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業を行なっていく上で生じる運営やサービスについての問題点や疑問等、市の担当者と協議しながら一緒に解決を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族へ介護計画の見直されたものを渡して説明を行っている。事業所での利用者の様子は、療法、レクリエーション表、生活記録を送付し写真等で知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度はアンケートを家族に送付し、意見や要望を気軽に伝えられる機会を作っており、家族の訪問時には、話合える雰囲気づくりに配慮している。出された課題や要望等は運営やケアに反映させ、質の向上をめざす取り組みがなされている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員の移動や退職には、残った職員にて利用者へのダメージを配慮しながら、最善の努力を行なっている。		利用者やご家族への信頼を築くためにも、馴染みの職員が継続的に対応できるような体制を作り、引継ぎの期間や時期についても検討してほしい。


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、年に1回の認知症介護実践研修を順番に職員が受講できるように勤務調整を行っている。研修マニュアルを作成し、職員がいつでも学習できるように指導している。</p>		<p>地域密着型サービスの実践力を身につけていく為に、外部、内部研修の年間計画や、スキルアップの為に研修情報の提供など、働きながら技術や知識を身につける機会や工夫が望まれる。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム研修会などで、同業者と情報交換や同ホームへの訪問、見学時などに活動報告等により交流を行っている。</p>		<p>管理者、職員が同業者と交流する機会をもち、交換研修やスタッフ研修等行い、日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な交流の取り組みに期待したい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が安心して雰囲気馴染めるように、家族や本人と話し合い、見学に来て頂き、納得して利用してもらうように支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者から、料理や洗濯の干し方等、生活の知恵、戦争体験などを教えてもらう事が多くあり、暮らしの中で共に支えあう関係づくりが構築されている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人や家族から管理者へ直接の希望は今の時点では少なく、日々の行動や生活していく中で会話から汲み取るように努めている。</p>		<p>一人ひとりがどのように暮らしたいか、何をしたいかを家族を交えて検討したり、日々の表情や何気ない行動から意向や希望を把握できるように職員全員で話し合っほしい。</p>
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>一人ひとりの担当職員が決まっているが、日ごろの関わりの中で気づいたり、本人の思いを聞いたりした事を職員全員で話し合い、介護計画作成にいかしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1ヶ月毎に、介護計画の遂行状況を評価し、利用者の状態変化やご家族・本人の意向に応じて見直しが行われている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者や地域の方の要望に柔軟に対応していく姿勢はあるが、まだ事例はなく、体制面の取り組みが今後の課題である。</p>		<p>馴染みの関係を大切にしながら、事業所が独自に実施している自主サービスを活かし、利用者・家族が安心して暮らし続ける為に必要で多様な機能を提供していく取り組みが望まれる。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望されるかかりつけ医がある場合は、家族同行の受診となっているが、できない場合には職員で代行するように配慮している。契約時に説明し、協力医に変更しており、複数の医療機関との連携がなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期にあつては、本人・家族、医師と十分に話し合い、他施設への紹介を行なう等、安心してサービスが利用できるよう支援している。		終末に対する事業所の対応指針を定め、医療処置の対応や利用者・家族の意向を踏まえて、管理者・職員全員で方針や具体的内容について話し合いを積み重ねてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常的なケアの中でプライバシーの確保や利用者の尊厳を守るために言葉遣い等に配慮されているが、マニュアルがなく個人情報保護の研修等は行なわれていない。		全職員が個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底が図られるように、繰り返しの研修やマニュアル作成等の取り組みが望まれる。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や体操などの運動を多く取り入れ、日中を活動的にリズム正しく過ごす為に、1日の行動予定を定めており、一人ひとりのペースに合わせて支援が行われている。		基本的な1日の流れはあるが、その日、その時の本人の気持ちを尊重しながら、できる限り個別性を重視した支援の取り組みが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者と職員ができるところは一緒に、準備や調理、後片付け等行われており、メニューは職員が工夫されている。</p>		<p>単に食欲や栄養を満たすだけでなく、旬の食材や新鮮なものを取り入れ、利用者の好みや苦手なものを踏まえたメニューをみんなで工夫し、一緒に食卓を囲み、食事を楽しむ様々な取り組みに期待したい。</p>
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>毎日の入浴を基本としており、利用者のその日の希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>食事作り、手芸、レクリエーション、散歩や外出などの楽しみごとを利用者と相談しながら行っている。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気や本人の気分や希望に応じて、毎朝夕の散歩や買い物、近隣の喫茶店等へでかけている。お花見や灘のけんか祭りなど季節を感じたり、心身の活性につながる取り組みがなされている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>一人ひとりのその日の気分や状態を把握し、安全面に配慮しながら、日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支える工夫がなされている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	3ヶ月に1回は利用者と共に消防署の協力を経て消火器の使い方や非難訓練を行っている。地域の協力体制については運営推進委員会で話し合い、働きかけるよう取り組まれている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	薄味をベースに和食を主体にし、栄養のバランスを考えて支援している。一人ひとりの食事摂取量を記録に残しており、水分量が1日を通じて確保できるよう、状態に応じて支援されている。		職員全員が1日の栄養摂取総量や水分量を大まかに把握できるように話し合い、水分チェック表を利用したり、定期的に管理栄養士の専門的なアドバイスをもらう等の取り組みが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、自然な光を取り入れられるように、窓を大きくし、リビングは吹き抜けになっており、トップライトを多く設け、明るい雰囲気です居心地良く過ごせる工夫がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、カーペット、仏壇、テレビ、テーブルやタンスなどの使い慣れたものが持ち込まれ、写真や趣味の飾りやぬいぐるみ等で、個性を活かした居心地のよい生活スタイル作りに配慮されている。		

 は、重点項目。